

## 【第2回横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定委員会 議事録】

日 時	平成17年9月21日(水) 9:00~12:30(プレゼンテーション及びヒアリング) 13:15~14:20(書類審査)
場 所	横浜市こころの健康相談センター 7階研修室
出席委員	助川征雄委員長、米倉令二副委員長、菊地綾子委員、桑原寛委員(書類審査のみ出席)、日浦美智江委員
欠席委員	なし
事務局	衛生局保健部長、福祉保健連携等担当部長、精神保健福祉課長、精神保健福祉課施設等担当係長、担当職員
傍聴者	6名

### 次 第

#### 1 議事

##### (1) 公募説明会及び応募状況等の報告

###### 【事務局説明】

- ・ 8月24日(水)に開催された公募説明会は、5団体の参加があった。
- ・ 8月25日(木)に予定していた現地説明会は、参加希望者がなかったため、開催しなかった。
- ・ 8月24日(水)から8月29日(月)の公募要項への質問書の受付期間に、質問書の提出はなかった。
- ・ 9月5日(月)から9月9日(金)の応募書類の受付期間に、応募書類の提出があったのは、4団体からで、これは既設4館を運営している団体であり、各施設への応募状況は、現在の運営団体がそれぞれ運営している施設へ、指定管理者の応募をした。
- ・ 本日のプレゼンテーションを行う順番は、くじ引きにより、第1番目は保土ヶ谷区、第2番目は栄区、第3番目は神奈川区、第4番目は港南区と決定した。

## (2) プレゼンテーション及びヒアリングの実施

### ①保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター

《応募団体》社会福祉法人横浜市社会事業協会

#### ●プレゼンテーション

- ・ 当日配付資料に基づき法人が説明。(別紙1)

#### ○ヒアリング(委員の質問に法人が答える形式で実施)

- ・ **今年度の利用状況は、昨年度と比較して増えているか。**  
→ 登録者数、すべてのサービスの利用者数とも増えている。
- ・ **保土ヶ谷には、地域に障害の種類を越えた連携はあるか。**  
→ 区の福祉保健センターが主催して3障害の集まりがある。地域活動ホームでは身体・知的障害の相談を受けているが、精神もそこに加わることを考えている。
- ・ **利用実績のところに、メンバーミーティングや「御意見 BOX」のことがあるが、具体的にはどのように機能しているか。**  
→ 今のところ、ミーティングや「御意見 BOX」で具体的な提案はあまり上がってきていないのが現状。
- ・ **これだけたくさんの方のことを、今のスタッフの人数で実施できるか。**  
→ 大変だが、提案した以上は、しっかりやっていきたい。
- ・ **区内小・中学校の福祉体験学習としての生徒の受け入れについて、具体的に教えてほしい。**  
→ 保土ヶ谷区の福祉学習体験の一環として、11月に小・中学生4～5名で生活支援センターを訪れ、ガイダンスを行ったり、障害者とゲーム、卓球、会話を通じて、施設への理解を深めてもらっている。
- ・ **自立社会参加の取り組みとして、生活支援センターを就労の場とすることができるか。また、一般就労のためのネットワークはあるか。**  
→ 3階の社会福祉協議会については、就労の場となる可能性が高い。一般就労については、10月にオープンする就労支援センターや、ジョブ・アシスト横浜との連携を考えている。
- ・ **センターに來ない障害者に対して、どう取り組むか。**  
→ 難しい問題だが、区福祉保健センターでの訪問で手の届かない部分があれば、協力して行きたい。

- ・ 訪問して、何をするのか、具体例をひとつ示してほしい。
  - 区福祉保健センターを通じて、退院促進の手助けを行っている。
- ・ 食事サービスのメニューはどういう視点で作っているか。
  - 栄養バランスの取れたものを作ることを、心がけている。

## ②栄区精神障害者生活支援センター

《応募団体》社会福祉法人恵友会

### ●プレゼンテーション

- ・ パワーポイントを使用して法人が説明。(別紙2)

### ○ヒアリング(委員の質問に法人が答える形式で実施)

- ・ 「地域における協働・連携の実績」で、「中区にある石川町クリニックとの人的交流等の連携も行っている。」とあるが、具体的には何か。
  - 実習生の交流をやっている。利用者でクリニックに通院している方の難しいケースについて医師と話し合いを行っている。
- ・ 「いたちまつり」は施設独自の行事か。いつ実施し、参加者は何人ぐらいか。その中、地域の人たちは何人ぐらいいるか。また、参加人数は昨年度と比べてどうか。
  - 1階の地域ケアプラザと一緒にやっている。今年は6月に実施し、参加者は約600人ぐらい。内訳は、主に地域の方と、施設の関係者で、人数は昨年と同程度である。
- ・ 家族支援で家族会に入っていない者に対して、何をやっているか。
  - 月1回、精神科医を囲んで家族が話し合う会を開催し、家族の参加を呼びかけている。
- ・ 一日の職員配置は、何名か。
  - 2交替制で、平均的には日勤が2名、遅出が2～3名。
- ・ その中で、電話相談、訪問、情報提供に充てる労力の割合は。
  - 相談・訪問は全員でやるが、割合については検証してみないと分からない。
- ・ スタッフミーティングの頻度は。
  - 毎日、日勤と遅出が重なる時に引継ということで実施している。また、8人全員による全体会議は、月1回の休館日に行っている。カンファレンスはその都度行っている。
- ・ 研修は何を行っているか。

- 市精連をはじめとした各種研修に参加する他、恵友会独自のものも行って  
いる。
- ・ **利用者の滞在時間が長いのは、どのような内容のプログラムか。**
  - 卓球、テレビ、おしゃべりの時間が多い。
- ・ **利用者数が伸びた原因は何か。**
  - 昨年スタッフが替わり、来やすくなったとの評価を得ている。
- ・ **家族会は常連が多いのか、新しい人が加入しているのか。**
  - 家族会の状況は把握していないが、センターへは新しい家族は来館してい  
る。
- ・ **今年度に入ってから夕食サービスの利用者は増えたか。**
  - 増えている。16年度は1日平均8.5人ぐらいだったが、今年度は1日  
平均12人ぐらいいる。
- ・ **区福祉保健センターとの連携は十分に機能しているか。また、そこに家族  
会は加わっているか。**
  - 区とは実務者連絡会、講演会、共催事業を行い、うまく機能している。家  
族会は月2回、生活支援センターで開催しているので、センターを通じて  
連携をとっている。
- ・ **ケアプラザとは日常的な交流はあるのか。また、合築としてのメリットは  
あるか。栄区は全市的に見ても、ボランティアが最も多いと言われている  
が、それにより恩恵を蒙っていることはあるか。**
  - ケアプラザのボランティアが、生活支援センターのイベントへ参加してい  
る。また、ケアプラザのイベント時には、生活支援センターも利用しても  
らっている。
- ・ **イベントが多いが、8人のスタッフでは訪問、同行、相談等の業務に支障  
がないか。どのような方向に力を入れるつもりか。**
  - 訪問、同行はスケジュールが合う時に行う。また、イベントにはボランテ  
ィアや利用者本人にも入ってもらう。栄区としては、訪問、同行に力を入  
れていく。

### ③神奈川区精神障害者生活支援センター

《応募団体》財団法人横浜市総合保健医療財団

#### ●プレゼンテーション

- ・ 当日配付資料に基づき法人が説明。(別紙3)

○ヒアリング(委員の質問に法人が答える形式で実施)

- ・ 地域との連携はどのように関わっているのか。  
→ 夏祭りや盆踊りに企画の段階から構成員として関わっている。
- ・ 障害のある方が地域で生きようとする場合、個人の名前を出していくことも必要だと思うが、そのことと、個人情報との関係はどう考えているか。  
→ 現場では、障害者の名前が知られていることの中で、援助が行われている。  
法人として、ルールどおり個人情報には配慮するが、特に問題は生じていない。
- ・ これだけの業務を4名で行うのは大変ではないか。  
→ 大変だが、最大限の努力をするつもりである。
- ・ 平成17年度の来館者数、相談者数、食事サービス数は増えているか。  
→ 増えている。
- ・ 法人の年次有給休暇数は何日か。  
→ 年次休暇は20日、夏季休暇は5日で就業規則等はすべて横浜市に準じている。
- ・ 医療相談に内科があるが、この利用状況はどれぐらいか。  
→ 月1回行っているが、利用は1回に1人か2人ぐらい。
- ・ 訪問、同行で引きこもりの人に対する支援策は考えているか。  
→ 最初来館してから、以後は来なくなった人に細かく接触を図っている。

#### ④港南区生活支援センター

《応募団体》財団法人神奈川県児童医療福祉財団

##### ●プレゼンテーション

- ・ 応募書類に基づき法人が説明。当日追加資料あり(別紙4)

○ヒアリング(委員の質問に法人が答える形式で実施)

- ・ 災害備蓄が少ないのではないかと考えるが、どれぐらいあるのか。備蓄食糧はカンパンだけでは、望ましくない。  
→ 20人で3日分を用意している。食糧の内容は今後変更する。
- ・ 電話相談をボランティアが手伝うことはあるか。  
→ 電話相談はスタッフのみで実施し、ボランティアは行わない。
- ・ 就労支援を行っているが、どの程度まで就労に結びついているか。

- 就労にまでは結びついていない。情報提供、就労講座を行っている。
- ・ 就労後の生活支援についてはどうか。
  - 生活支援センターが、就労した方たちが会社帰りに寄れる居場所となっている
- ・ 近くに大きな活動ホームがあるが、刺激を受けるために他施設を利用することはないのか。
  - 今後、施設長会議で検討していきたい。

《傍聴者退場・休憩》

### (3) 書類審査

- ・ 各団体への評価は、第3回委員会までに提出資料を持ち帰った上で判断することとし、本日の書類審査では、委員相互により応募書類の内容確認を行い、書類への理解を深めることを目的とすることを決定。

#### ①社会福祉法人横浜市社会事業協会（保土ヶ谷区生活支援センター）について

##### 主な発言

- ・ 若い職員が多いが、相談援助の経験が十分あるか心配だ。
- ・ イベントや食事サービスは利用者が多く、利用しやすいとの評判だ。
- ・ 入浴サービスの利用実績が少ない。
- ・ 精神保健福祉関係の有資格者の比率が低い。

#### ②社会福祉法人恵友会（栄区生活支援センター）について

##### 主な発言

- ・ この法人はピアサポートの推進に積極的である。
- ・ 昨年11月にスタッフが交替し、以前より接客態度が良くなった。
- ・ 区内の3障害関係のネットワークは十分に機能していると言えるか。

#### ③財団法人横浜市総合保健医療財団（神奈川区生活支援センター）について

##### 主な発言

- ・ 就労支援について、同じ法人が10月から就労支援センターも運営すると聞いている。

④財団法人神奈川県児童医療福祉財団（港南区生活支援センター）について

主な発言

- ・ 5施設の所長会をもっと機能させるべきである。
- ・ 地域交流を最重点課題としているようだが、支援機能のほうがより大切なのではないか。
- ・ 法人の組織図で生活支援センターが子育て事業部や検診事業部等と並列されているが、他の部門と連携は図られているか。
- ・ 幅広いニーズに応えるべく努力していることを評価するが、統合失調症等の難しい事例についても対応を期待したい。

(4) その他

10月3日（月）に第3回選定委員会を開催するが、本日は応募書類と採点表を持ち帰り、次回の委員会までに採点表の素案を完成しておくことを、委員長から各委員に依頼。次回の委員会では全員の素案を見ながら再度検討を行い、部分的に修正することも可能とすることで決定。